

【短編・体験版】女の子が身体を洗ってくれる個室浴場～乳首責めを添えて～

—今日、僕はとある店の前に立っている。

なんでも、その店は「キャストの女の子が全身を洗ってくれて、客はただ横になっているだけでOK」

というちょっと変わったお風呂なのだ。

お風呂と言っても本番要素があるわけではなく、あくまでも身体を洗ってくれるというだけらしい。

たまたまネットでその店の存在を知って興味をもった僕は、数日前に早速予約を入れて現在に至る、というわけだ。

「予約してた方ですね、どうぞこちらへ…」

受付で手続きを済ませて、早速案内された部屋へと向かう。

その部屋では、僕と同年くらいか、あるいはちょっと年上くらいのお姉さんが歓迎してくれた。

この店の制服…なのかは知らないが、大正時代チックな雰囲気漂う和服姿で上品に見える。

「今日は来てくださってありがとうございます！私のことは理香(りか)とでも呼んでくださると嬉しいです。

…あ、もちろん源氏名、つまりこの店の仮の名前ですからね？」

「理香さんですね、…しかしお美しい。」

僕は理香と名乗った担当のお姉さんに一声誉め言葉を入れてみた。もちろん、お世辞などではなく本心からだ。

「あらあら…褒めても何も出ないですからね？」

それじゃあ、早速洗っていきましょうか。まずは服を脱いでくださいね～。」

理香は軽く微笑みながら制服を脱いで、あらかじめ中に着ていた水着姿になる。

さすがに、本番要素はないのもあって全裸になるというわけではないらしい。

ドキドキ…ドキドキ…

...これからどのような展開が待っているのだろうかと考えて、ちょっと緊張する。

心を落ち着かせながら、一枚一枚服を脱いでいく。

そうしてタオル1枚の姿になった僕は、ゆっくりと更衣室から浴室へと足を進めていくのだった。

シャー———...

頭・顔・胴体・足...

上から順番に、綺麗に身体を洗って流してくれる理香。

洗う時のタオルを動かす力も強すぎず弱すぎずで、とても気持ちがよかった。

「さて、いい感じに洗い終わりましたね...。

いよいよお湯に浸かろうとするところですが...せっかくですし、こちらに用意したマットでちょっと休んでいってはいかがでしょうか？」

理香がちょっとした提案をする。

「マットですか...お湯に入る前に軽く寝転がるのも悪くなさそうですね、それでは早速...」

僕は理香の提案に乗って、指し示されたマットに仰向けに寝転がる。

マットに入っている空気のこともあり、身体が軽く宙に浮いているような感覚がする。

...これ、いいかも？

(うふふふ...この人なかなかちよいいんですね...。

この提案、畀に決まってるじゃないですか。まあそのままお湯に入ったとしてもそちらで遊んでいましたが...)

理香は黒い笑みを浮かべながら、マットでくつろぐ僕の後ろへ回り込む。

そして、不意打ちだとばかりにマットの四隅に付いているベルトを取り出して僕の両手を拘束してしまったのだ。

「……！？

な、なんの真似なんです？理香さん？」

当然、僕は驚いたような声を出す。

「なんの真似も何も、ここはそういうことを、つまり身体をただ洗い流すだけじゃなくて、少しだけでもえっちなサービスも付いてくる店ですからね…。

このまま帰っちゃったら意味がないじゃないですか、ねえ？」

これからがサービスの真髄ですよと言わんばかりに、にやにやと笑う理香。

理香はあっけにとられている僕を見ながら、今度は足も両方ともマットのベルトで繋いでしまったのだ。

理香が拘束で身動きの出来ない僕に向かって手を伸ばす。

「さて、まずは…ここでしょうか。えーいつ。」

きゅっ…。むにゅっ。

「ひゃあんっ！」

突然、僕の乳首を軽く摘まんできたのだ。

乳首程度、自分で触ったことはもちろん多少はある。

だが、他人に触られるとなると話は別だ。

自分で触る時とは比べ物にならない刺激に、腰が抜けそうになる。

「ああ、この店の部屋はちゃんと防音仕様になっています。

なので、思いつきり女の子のような声で狂っちゃっても大丈夫ですよ？ 安心してくださいね♪」

理香は満面の笑みを浮かべて、次の責めを考えているようだ。

この先、僕はどんな目に遭わされてしまうのだろうか…。

【サンプルはここまでとなります。】

今作のサムネイルの作成では、

・みんちりえ「和モダンな浴室」

・フリー立ち絵-RAIKO-「大正ロマン風の女性」

の素材を利用させていただきました。ありがとうございます♪